

(1)

なかかわねひるさとつうしん=28= 平成5年2月28日発行

中川根ふる里通信

= 第28号 =

編集・発行・モアラブ中川根
連絡先 〒428-03
静岡県榛原郡中川根町上長尾
ふる里通信係 859-6
郵便振替
口座〈名古屋〉7-81556



町カレンダーより

藤川大井神社の浦安の舞、9月15日。

小沢涉先生急逝

医師 小沢涉先生が一月七日、誰にも別れを告げず、来世へ旅立つて一まいりました。誠に残念な事でございます。

先生は昭和三十三年頃から父佑先生のもとに後継者として町民の健康を引き受けた来られました。内科の外に外科・眼科・耳鼻科など検査技術もこなす万能医師。毎日先生をしてたて来る大勢の患者さんへの診療のほかに、中央小学校、中川根中の学校医、乳幼児及住民健康診断と責務は大変なものだった様です。

先生も六十歳をすぎ、体調が思わしくないと話も聞く事もありました。医者の不養生の誇る様に我が身をいとおしむ時間も無かったかも知れません。特に緑内障により視野が狭まっていたとのことです。

一月十日 智満寺にて葬儀かとり行なわれました。広い本堂一杯に先生との別れとおも人々が集まりました。境内も

沢山の人々で埋まりました悲しいお別れでした。

それにしても上長尾地区、広く言えば町内の住民は、医者

さんがいつもそばに居てくれた事があたりまえの生活をおくって来ましたから、その後の生活が大変な事になってしまった。

ましまして、そして高齢化社会のトップを行っている我が町ですから、健康そうに見える高齢者も、実はお医者さんを

たよりに住んでいたのです。空氣や水の様に失なってはじめて、先生の偉大さ、ありがたさに気が付いた次第です。

先生は悲しみも苦しみも無い世界へ行つてしまわれたのです。どうぞゆっくりお休み下さい。私達も自ら攝生して日々精進する所が、先生へのご供養になると思います。



大型合併 3月1日「JA大井川」誕生

志太地区及び北榛原の六つの農協が合併します。(キタハイ農協、大井川農業協同組合が三月一日付で発足します。) 本店は藤枝市との事で今まで本所があつたところが支店となるとの事です。

中川根にも農協関係所は藤枝、櫛山、水川、田野口、上長尾(高郷)、下長尾(現支所)、地名、中川根製革工場(梅島下)とあり、その機関が名称が変わっただけですから今までと業務など変わることは無い様です。

古代志太平野は、大井川によって造られました。地理的尺度によればほんのすぐ前天正の瀬替えて五和、金谷地区を通って大井川を直進するまでは、遠津方面まで川幅がめうたと言えます。その点、JA大井川の名稱は大変ふさわしい。そこで、丁度、特産品の根茶は、キタハイの川根茶、から「大井川の川根茶」と非常にややこしい表現にならざることなく、川根茶として独立してほしいものです。

約三十年前、中川根農協では、有線放送施設を開設、有線放送と地区内電話にて町の情報、NTTより格安の電話料で、住民サービスをしてくれていますが、施設などの老朽化により、NTT電話回線利用の「オフトーケン通信システム」に三月一日より変わります。JA大井川と共に地域での情報交換の場として期待しています。

中川根町議会議員、無投票当選

- ① 薩田達夫 60 無所属現 ③ 上長尾
 　・社会福祉の充実互助を・青少年の健全育成
 　・地陽産業の振興発展・明るく住みよい町に
- ② 石原真澄 52 無所属新 下長尾
 　・明るく住みよい地域を・青少年健全育成
 　・地域行政改革の推進・地陽産業の育成発展
- ③ 花村元次 56 無所属現 ① 徳山
 　・産業の振興で豊かな町・福祉の充実住みよい町
 　・青少年育成と老人福祉・大井川流域の発展期す
- ④ 板谷 信 42 無所属新 地名
 　・住民が単に行政サービスの受け手であるだけでなく、地方
 　・自治の主体として参加できる行政を
- ⑤ 山口信雄 56 無所属新 藤川
 　・地陽産業の振興・青少年の健全育成
 　・町民参加の明るい政治・過疎対策の産業振興
- ⑥ 西村藤一郎 57 無所属現 ② 藤川
 　・老人福祉施設充実向上・青少年の健全育成を
 　・過疎対策産業の振興・地陽産業の充実振興
- ⑦ 小林孟司 50 無所属現 ① 入保尾
 　・学級教育と福祉を重視・地陽産業の充実と発展
 　・町民の体力づくりと・健全財政、豊かな町に
- ※ 故省略。届け出順。住民と町政とのパイプ役、頑張って
 　いたことをします。女性議員は、今回はじめてです。
- 今回で任期満了となつて、終られた人
- ⑧ 金子 護さん ⑨ 三倉 元志さん ⑩ 滝下郁郎さん
 　・農林業の振興と発展・生活環境改善の明るい町
 　・障害者福祉と明るい町・老若男女の健全社会
- ⑪ 長嶋 彰さん ⑫ 板谷 年純さん
 　・苦労様でした

あのころ・：

久野脇→水川

大井川鉄道バス運行

1992年
町発行
カレンダーより



文と写真

久野脇 上原淑郎さん

大井川鉄道が家山から水川までバスを乗り入れたのは、我が青春時代の昭和三十三年の秋祭り前と記憶しています。

当時、青年団活動やいろいろな会合は、中央公民館（上長尾小学校内）を利用して行なっていたので、歩いて行くか、自転車で行くかのどちらかでしたが、久野脇（三津間）からですと自転車の場合、帰りに坂を引き上げる時間が長いため、歩いて行く比きのほうが多かった思います。

そんな交通事情の中でしたので、バスの運行は地域の人達には忘れる、とのできない、数々の恩があると思います。

砂利道をほこりをあげながら、一日五往復ぐらいしたと思いますが、地域の人達は医院、農協、役場、郵便局などに行く用事があるときなど、本当にバスが乗り入れたことに感謝したものでした。

私も腰を痛め、このバスに乗って医院へ





写真上 役場のバス

4ページ 高郷局(中川根中前)停留所 ボンネットバス



著 富田富士也 (ハート出版)

『引きこもりからの旅立ち』

『続・引きこもりからの旅立ち
父の一言が僕を変えた』

各300ページ 2,000円

雑誌 小学館「小六教育技術」

好評連載中

登校拒否児との対話

近い将来 静岡

新聞にも連載

されるようです。

治字及び写真は

新聞切り抜き

に行き、いち早く治療をしていた、だいて良くなった、と思いまます。

このように、今の自家用車が普及した時代から、夢のような話のように思われますが、我が青春時代は、「歩く」とかいろいろな活動をするための大功な原点でありました。当時、バスの乗り入れによって便利になりました。

そして今はだれもが乗用車を足代わりにしている時代ですが、この「歩く」と今一度、現代にも当てはめて考えて見る事がでうな

いかと思う今日このごろです。

富田さんのやっている事を知ったのは、三年ほど前、毎日新聞連載、同世代からのメッセージの中にお名前を見つけた時からです。東京メンタルヘルスアカデミー代表・登校拒否・就職拒否・引きこもり・シンナー依存などの人達のカウンセリングをしておられます。

正月すぎ、本が贈られて来ました、続引きこもりからの旅立ち。しっかりと読ませてもういました。そして二月六日、静岡市の社会福祉会館で、富田さんの講演を聞かせてもらいました。約四時間、熱演、用意された席の三倍ほどの聴者も真剣、心も足もおもく帰りました。

富田さんは、各新聞、テレビなどマスコミに何回も取り上げられており、ご存知の方もいらっしゃる事と思いますが、御前崎の小・中学校、藤枝東高等学校と著作されています。是非ご覧になって下さい。

『実態は調査の数倍』

施設通い、保健室、登校

人物紹介 富田富士也さん

富田さんは、ふる里通信創刊よりの会員です。

何年か前、年賀状にお父さんの事が書かれていて

「父は久保尾の西村金作さんの漱文で、晩年久保尾を

懐しがっていた」との事又、「今年の夏も、子供達をつれて

青部にキャンプに行きます」と書かれていました。

富田さんのやっている事を知ったのは、三年ほど前、毎日新聞連載、同世代からの

メッセージの中にお名前を見つけた時からです。東京メンタルヘルスアカデミー代

表・登校拒否・就職拒否・引きこもり・シンナー依存などの人達のカウンセ

リングをしておられます。



こども「川根茶」をよろしく

「ふる里通信」会員のみさん お元気ですか。

月日のたつのは早いもので、二月の立春が迫ってきてあります。

ふる里の新茶期もあは三ヶ月足らずで訪れる、とに

野も山も青葉若葉の香りに包まれる新茶の季節は、川根地方が最も活気に溢れる時期でもあります。

地元にいる私たちでさえも、毎年この季節が近づいてくると、気温の変動にも敏感になるのです。これでも天候に恵まれて、良いお茶ができるとい

うから願っております。

ところで、「川根の新茶はいつからでよ

うか?」

中川根町をふるさととしてお持ちのみなさんに、こんな質問をすることはおかしいとも思ひませんが、最近は野菜や果物などの栽培方法がかわってきただことに、保存設備が進歩したことから、農産物の旬があいまいになってきております。

これに加えて、流通業界も競争が激

しくなってきており、売るためには、早いものがちである、といつに現象も出てきておりますので、あえてこなんことを申上げてみた次第です。

農協中川根製茶工場へ出荷される、町内でとれた一番茶の最初の出荷日(俗にはしり新茶といわれる)は、

過去八年間の資料からみて、四月二十五日が中心日で、この日の入荷量は64kgとごく少量です。一日の出荷合計数量が100kgを越すのは、最も早い年で四月二十六日、最もおそい年で五月六日、過去八年間の状況からみて、中心日は四月三十日となつてます。

これは全て荒茶ですから、これを御家庭でお使い頂けるように精製加工し、袋詰めや色装など致し、荷造り発送等を経ます。それでの家庭へ届くのは、どんなに早く見ても、れより三、四日あととなり五月上旬、つまり連休の中頃ということがあります。しかも、この時期のお茶は、数量的にはごく僅かなものでありまして、一般的にお求めやすいエコノミーフラスのお茶、いわゆる家庭用の呑茶に向く原料は、これより十日くらいあとにはないと生産されません。

ですから、私ども中川根町内から生産された「川根新茶」は、五月連休明けまで以後である、といふになります。

ところで、なんと不可解なことに「川根新茶」は四月の中旬ころから売り出されております。

私たちの町より一つ南の川根町でとれるお茶もこれまで「川根茶」であります。が、先に述べたように、とからみでもせいか、四月の末か、五月のはじめころでないと、ある程度量的にまとまつた精製加工ができるのではないかと思われます。

それにして、四月の中旬から「川根新茶」が売られるのは、(都市部のお茶店さんなど)不思議であります。



発行所 (株) きょうせい
編著者 村松敬一郎
富田 熟一
棒村 純一

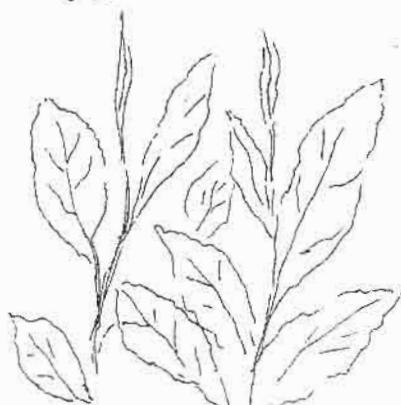
定価 1,500円(税込)

購入連絡先 TEL 437-16

静岡県小笠郡浜岡町比木
2915-3

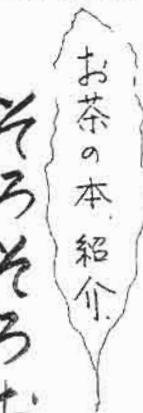
TEL 0537-86-3731.

送料 260円は、購入先負担
です。



昨年掛川市で開かれた「国際茶振興シンポジウム(掛川)」の内容と歴史、薬効など最新話題が載っています。

そろそろお茶の時間



この是非を論ずるとは別にしましても、「川根新茶」の名前だけが、産地の実状を無視して、ひとり歩きをしているという、重大な事実がそこには存在しております。その辺のところを、みなさんも御理解を頂きまして、ほんものの「川根新茶」ができる時期を正確に知りて頂き、おいしいお茶がとれるふるやことを「産地として育成」することにも、格段のお力添えを賜りますようお願い申上げます。

農協中川根製茶工場

細田 洋司



人類が何千年も、苦労い緑茶を愛飲して来たことは、何が深い訳があるのでないだろうか。また茶道とか、お茶の時間とか、日常生活に深くかかわって来たといえるのは、何故であろうか。現在、緑茶の年間消費量は十万トンを割り、全て輸入によるコーヒーの消費量が三三万トンとは、日本文化の行く末にとつて、ゆっくり問題ではないかと考えられる。

経済大国に暮らす日本人は、生活大国をめざして、そろそろお茶の時間という気持ちをもつべきだと思うが、私は敢えて、日本人は、そろそろ緑茶の時間ヒーラー言ひ方を提倡したいと思う。何故なら、緑茶を飲むことは多面的な効果が実に大きいからである。

近年、それらの理由が、保健栄養学的にも、薬学的にも、だんだん解明されてきている。

この本は、そういうことを背景とテーマにして開かれた「国際茶振興シンポジウム(掛川)」の討論・報告を中心によどめたものである。

このシンポジウムには、お茶をいろいろな角度から研究している学者や茶業関係者に全国からお集りいたたいた。特に村松敬一郎、富田熟、小国伊太郎先生には、企画から今まで、終始シンポジウムを成功させるべく、立派な報告書をつくるとの工夫をこなしていただいた。また山内新市先生(中川根町出身)には、この本の編集の実質的なまとめ役と整理をやっていただきいた。これらの方々に心より感謝申し上げるとともに、本書が茶業振興はもとより、緑茶をめぐる日本の文化と日本人の心のゆとりと健康増進に少しでも役立つことができれば幸いと思つてゐる。

内容の序文紹介

はじめに

掛川市長

棒村純一

東京のかたすみから (1)

午の会△発足

渡辺 實夫

場所は土肥温泉、平成四年の暮も押しせまつた十二月一日夜。

幹事

市川 学、山本睦美、鈴木 昇、藤江行雄

藤田

三枝

西原

美千

藤田

和男

中村

久代

橋本

伴一

池田

みづ枝

で始まつた。上長尾、水川、下長尾、久保尾、下泉、久野脇各小学校の合同同級会。

太平洋戦争中の事で、久野脇発電所建設に伴う墮道工事が、現北朝鮮及び韓国人が主労働力となつて進められた事もあって、その子弟が各小学校へ大勢転入学して来た時代でもあつた。又転出してゆく者、卒業を前に退役に服する者等々、落着いて勉強する間もなく、勿論、修学旅行なんて無かつた。

そんな時代を振り返つて、これから余生でなんとか青春をとり戻したい、団体行動するには名称も欲しい、そこで市川幹事の提案で、昭和五年午年生れが中心という「端午の会」発足と相成つた。ホテルを登つ頃には、ホテル側も我々を「端午の会」と呼んでくれるようになった。既に六十三歳になろうとしている会員達は、「青春よ、もう一度」とハッスルしているのである。

思えば前回の同級会以降、水川の黒田春雄、下泉の竹下緒一の逝去で、当会も二十一名の物故者を出し、本日（五年一月八日）は、ワタチャン、と、高郷の小沢医師の訃報一



午の会△発足式　土肥クラントオルニー明治館 平成4年12月1日

に接し、いたく世の無常を感じてゐる次第。

これを機に、中川根出身者各諸兄の活躍、同級会の様子を聞かせていただく為にも、私達の今回の内容を以下報告する事にいたします。写真は当日の参加者です。

○卒業前に志願兵として出征した、市川 学、高木 健

中野徳義、竹下精一の話。

○満蒙開拓、義勇軍に参加した人の苦労話。

○微用された女子の話。

○花柳流の舞踊を見てくれた原沢美代子(岩間久美子)。

○カラオケに合せて、やかにで踊ってくれた西原美千(赤土)。

○各仕事で身につけたノウハウ(知識)を、お互いに紹介したり、と云う藤江行雄の提案など、その他、酒席での話は数え切れなかったと云ふことです。

○高畠平四郎元町長の字幕が間違つて出た話。
○天竜川沿い出身の高柳健次郎は、なぜ文化勲章をもらつたのか。

○現在のテレビは、高柳先生の奥様のヘソクリ百円へ大正末期(?)を研究費として始ました話。

○テレビ局員を生かすも殺すも視聴率の話。

○テレビカメラ五ロロキロ(小錦の二倍)時代から $\frac{1}{500}$ の一キロ(砂糖一袋)の現在へ。

○カラーフ番組に色つかない苦情電話。

○野球のアナバイヤーにマイクを持たせるのを止めたのは何故か。

○テレビの天気予報は新聞を見て、

などなどです。

〒158 世田谷区玉川台二丁三十六ノ十

TEL. 03-3700-0004

余録

一月十日、小沢浩先生の葬儀の時、渡辺さんより心の、もつた弔電をいたしました。参列者の涙飞

さそりました。

寄稿文に同封されておりました「テレビ朝日社友会報」の二〇一より渡辺さんの文の一節をご紹介します

「末ひろがりの人生をめざして」

在職中会社の健康診断の時、両親のことと聞かれ、「九十

何歳健康です」と答えると、即座に君も大丈夫、親の年齢まで長生き出来る、診る必要なしと言われたことが一度

なされました。

それから考えた事は、これまで四十周年をどうして過ごすか」と言う事であった。先ず生き方として人のお世話をばらばらにして、「生涯現役、生涯青春」末ひろがりの人生を

○私の母、よくにどうしてテレビの音、画、色が中尾まで来るのか質問され、私の説明で解つてもらえたかどうかの話。

○五年の会の前身の同級生約二十名にテレビ朝日と案内した時の話、見れない所を見てもうった話。

ふるさと夜話

力士、吉ヶ嶽九万と力持ち中野一族

瀬沢 原田 耕作

近頃の日本の角力界は、人気絶頂。いつの場所も、満員御札の垂幕が下らない日は無く様に思う。こんなに角力の人気の高い現在、かつての中川根村から東京の大角力界に入り、三段目迄登った吉ヶ嶽といふ力士があったことを、皆さんにお報せする事も意義ある事と思い、ふるさと通信に筆を取ってみまし。

時代は明治の後期から大正初期へ掛けての話。

中野九万（くま）という子供が、明治二十五年四月、中川根村下長尾、中野武平の三男として生れた。武平の二男、故嘉一氏は九万の実兄で、現在の中野幸恵氏の実父である。長男があつたが早世した。

九万少年は、下長尾小学校卒業、明治三十八年、上長尾高等小学校二年を卒業、明治四十年十五歳の春、角界入りをして上京した。

何んという角力部屋へ入ったか、この点、不明である。大正三年九月一日の関東大震災のため、日本相撲協会相撲博物館の資料が焼失、また本人九万氏も昭和五十六年九十歳迄生存したが、現在では名も不明となってしまった。

本人の角力時代の話を聞き、知っている者が無く、遺憾にも親方も部屋

車に乗つたと云う。東京迄の汽車賃二円五十銭の時だつたと云う。

さしつけ、修業を重ねながら、明治四

十二年、十七歳の時、序の口十二枚目と

なり、吉ヶ嶽久馬と名乗つた。四十三年

四十四年、序二段、四十五年二十歳の時、

西三段目となつた。大正元年西三段五十枚

目が最高位だった。

現在、下長尾の小沢俊夫氏宅に、大正二年一月場所の番附表があるが、その番附は序三段三枚目である。

東京の中野家には、西三段目の番附が保存されている。吉ヶ嶽は弓取が立派であつたと云う。

吉ヶ嶽は、序の口から三段目まで又馬を名乗つたが、最後には、吉ヶ嶽九万と実名を名乗つた。

いつの頃か一部屋あたりの力士で中川根へ興業に来た事があつて、その際、吉ヶ嶽が弓取りを行つたと言う。

吉ヶ嶽の引退時期が不明であるが、引退後力を活用する運送店の仲仕をやつたといふ。大正十二年四月、下長尾の生家から分家、十月結婚、東京本所区に住んだが、大震災にあって品川区に移転、其の後、品川区中延二丁目に新築、現在に至つて居る。

現住地で茶商を開店、戦後茶の仕入に農協を訪れた事

があるが、たくましい骨格は、往年の力士を偲ばせるものがあつた。

角界を去つて後、酒に酔つて気謙の良い時は、良く

角力基句を唄つたといふ。

ふるさと夜話



吉ヶ嶽時代の番附表に依ると、幕の内四十八名、十両三十名、二段目百三十四名、三段目百五十六名、序二段二百十三名、序の口八十二名、従員百二十一名、計七百七十三名となつてゐる。

当時、東の横綱は駒ヶ岳、南陸山、大関は西三海、関脇は朝汐、小結千年川、西は横綱梅ヶ谷、太刀山、大関鳳、関脇伊勢海、小結玉槍となつてゐる。

昔から今日まで、中川根から角界へ入つて、三段目まで務めた力士は、下長尾自身の吉ヶ嶽九万を於て、他に無いのである。余談であるが、本川根町には昭和三十年代角界へ入つて、序の口になつた人物があるが、惜しい事に廃めてしまつた。川根町には、私が調べた限りでは、一人も角界入りした人は無い。

吉ヶ嶽の生家、中野家は、慶長年間、金谷宿の代官を務めた先祖、浅原喜蔵以来代々力持ちの出た家であつたと云う。

中野と姓を変えて後、丹六を代々襲名したが、いつの頃の丹六が素手で青竹をパリパリとして、樽鉢巻とし、戸板で大井川の水を川上へ向つて押上げ、両岸へ跳ね飛んだ鮎を拾い集めたという話は有名である。

また熊切村花島の郷に腕の良い鍛冶屋があつた。丹六が秋葉山参拝のため通り掛つて、股鉄の新調を頼んだ。秋葉山に一泊して帰路鉄を受取つたが、気に食わぬところである。

中野家は明治三十五年、取灰から火が出て、全焼してしまつた。

たことがある。火災後中野家では、鉄を秋葉山に奉納した後に残つて居る。

鉄の奉納は一体何の為であったか、花島の鍛冶屋が三尺坊大権現に祈願して、精魂掛けて打つた鉄を中野家へ贈つた事と、中野家の鉄の奉納と何等かの關係があつたか否か、それは全く判らぬが、昔は火災にあうと、焼け残つた鉄器具を秋葉山に納めて、将来の厄難を祈願したといつてある。今ではすっかり廢れてしまつたが……。

尼子十勇士の一人、早川鮎之助の物語りでは、戸板で川の水を押し上げて、鮎を獲つたという話、花島の鍛冶屋の造つた股鉄を社で裂いたという話、共に後人の作り話とは思ふが、それ程、中野丹六という男は大力であつたと世人の人に慰めさせるための作り話であつたと筆者は思う。

吉ヶ嶽九万の実兄嘉一氏もまた大力であつた事を筆者は見たことがある。太平洋戦争前、平谷上の原の原の共同墓地に嘉一氏が東京の知人から輸れたとて墓場を造るところを見て驚いた事がある。一個右山五十キロの自然石を背負子で背負い上げて、只ひとりでその石を軽々と持ち上げて積み上げていた。嘉一氏は村議から農協専務までやつた男だが腕力も抜群であつて、素人でなければ「クロクワ・石工」の技も秀でていた。道路端で石積みをやつていたところ、通りかかった旅の石工が中野氏の技を見て、驚いて仁義を切つたという話がある。

平谷上の原の共同墓地を訪れた人は、現代の白い花崗岩がひめき、並ぶ中に、素朴な然し嚴こして時代を物語る自然石の墓台が在ることに気がつくであろう。この墓台の石こそ力士吉ヶ嶽の兄、中野喜加一氏の腕に依つて、軽々と積み上げられたものである。

定期講読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 テ共 150円

皆様の定期購読が、ふる里通信の発行を
支えます。年間4回(季刊誌)の発行を予
定しております。今回で購読期間の切れる
方には、郵便振替用紙を同封致しますから、
引き続ぎご購読をお願いします。
年間予約600円のご送金をおすすめし
ます。

住所変更のおりも、是非ご連絡下さい。

お込通知票

口座番号 名古屋 77-81556

加入者名 中川根ふる里通信係

ふる里通信に関する問い合わせ先、及

発行責任者

428-03 静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

111 沢 節子

TEL 0547-56-0015

梅の花がいつになく早く咲きました。上長尾 千葉山留満寺参
道の梅の並木も二月上旬がさかりました。例年より一月近く
早い様子です。でも、このまま春になってしまふわけでは
ないと恩ります。冬と春の季節の違いはしばらく続きそ
うです。

昨秋の通信のおくれがひびきまして、今回もおくれてしまい
年頭のことあいつなど申し上げにくくなってしまったが
今年もどうぞよろしくお願ひ申上げます。
夏の号から七月下旬、十月下旬、一月下旬、四月下旬の発刊を
心がけたいと思います。

一月一日、初日と同時に大丸山に登りました。六時三十分位まで
太平洋駿河湾など美く見えていましたが六時五十分、直
前ドライアイスの様な雲が東南の空をおおい残念な結果とな
ってしまいました。



今回号は寄稿下さった渡辺さん、細田さんは一月中旬に
いたいたいた原稿です。時候が過ぎ去となつたところがあ
りますが、ご理解いたさうにと恩ります。
瀬波の原田さんからも健筆をいたさうにと恩ります。
と夜話として連載下さい。今後とも
瀬波さんは昨春、体調とこわされましたが、過日、お元気
な姿を拝見致しました。

これから載せてみたい事として、中川根以外の事になる
かも知れませんが、北遠地方を題材とした童話を考
えております。例、京九の、とやまばの、と
そのほか、奥大井の話もしてみたいと考えています。

東京の中野唯司さんから、故郷のお茶で樂しませんか?と
言う書類をいたしました。関東方面の皆さんには、連絡
があつたのではないかと思います。五月月中旬に予定されて
いる「お茶についてのセミナー」とお伺いであります。
(決定した次回号に載せます)

二月初め、東京銀座、三越デパートで静岡まつり?が催された
ようで、大変な盛況だったとの連絡がありました。四季の里
も頑張ったようです。ふる里の香り、おふくろの味、いかが
が、の味がまた格別の四季の里、とてもすくすくお届けします。
秋の号の、川根井よ永遠にはなかなか好評で、大勢の皆さん
から連絡がありました。

中川根は言葉づかの異なる地域が大きく分けて三つあり
ます。大井川が政治的自然的障害物となつて、東西の文化へ
日本)が分かれているとも言われます。が、言葉づかの事には
あると大井川東西側入りこんでいる様です。ふる里通信も
川根井不書いたり」と要示されても、つまりこう、それは
と日常の会話からお言が消えていました。この点です。